

白山トンネル石川県情報公開報告

と き：2004年8月30日 14:00~16:00

ところ：石川県庁1F情報サービスセンター

出席：石川県 道路建設課 内尾、竹俣、駒田 行政サービスセンター宮村
白山の自然を考える会 加藤、山田、垣本、栗山

内 容：平成6年度「高規格幹線道路へのアクセス(国道360号)調査」

平成14年度作成パンフレット

平成15年度「小松白川連絡道調査報告書」

これまでの調査概要一覧表

道路事業の手順(既存資料の部分コピー)

【今回の要点】

1)公開された資料の特徴

- ・平成6年度の調査報告書(国の指定を受ける以前の県単独調査)が初公開された。
- ・平成15年度調査は大まかに環境調査と経済効果および広報の検討の2点である。
- ・調査概要一覧表により 10カ年の調査費用が計3億200万円と判明した。
- ・道路事業の手順資料は内容に欠け、説明資料としては全く不十分である。

2)意見交換で主に確認できたこと

Qは白山の自然を考える会 Aは道路建設課

①時間短縮

Q：平成6年度調査段階で小松東京間の時間短縮は32分と明示されている。パンフの1時間20分短縮は意図的表現、改めて欲しい。東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道が完成した時点で比較するのが説明として正しい。

A：現状の上越回りと比較するのが適切と考えている。今後ともパンフから1時間20分短縮の表現を省くことはしない。

②白山は恵みか障害か

Q：広報用パンフレットの「両県を結ぶ国道360号は、白山山系により阻まれ、県境部が未供用」との表現は白山を道路建設の障害として捉える古い考えの典型でないか。自然環境の恵みに対する考え(生物多様性)を基礎に、白山トンネルを建設しない方向に政策転換すべき時に来ている。

A：石川県は定住人口が減って行く、交流人口を増やして行く対策として小松白川連絡道は必要と考えている。白山の環境は重要と承知しており、環境調査にも力を入れている。

③何もしないD案

Q：何も建設しないD案を加え検討されたい。諸外国の環境アセスでは一般的だ。

A：次元が異なり、D案を同時に検討することはできない。

④環境調査の現状

Q：環境調査をどの程度行っていると認識しているか。

A：植生と猛禽類の分野のみで、哺乳類、昆虫などまだまだ不十分なものである。

※猛禽類をクリアすれば道路建設可能との想定で調査している姿勢が感じられる。